

桜花の詞

薄命能く伸ぶ旬日の寿

零丁宿を借る平の忠度

滋賀の浦は荒れて暖雪翻り

南朝の天子今何くにか在す

作者不詳

納言の姓字此の花を冒す

吟詠風を怨む源の義家

奈良の都は古りて紅霞簇が

芳山を望まんと欲すれば路更に賒か